

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日:2024年3月17日(日)

活動隊員:松田朋子

1. 活動期間

2024年3月14日(木) 12時 ~ 2024年3月16日(土) 12時

2. 活動場所

避難所:珠洲市立大谷小中学校(石川県珠洲市大谷町1字78番地)

仮設住宅:珠洲市立正院小中学校(石川県珠洲市正院町川尻1部39番地)

3. 石川県珠洲市の被害状況(3月15日 14:00時点 石川県庁情報)

人的被害 死者:103人 うち災害関連死:6人 負傷者:重傷47人、軽症202人

住家被害 建物全壊・半壊・一部損壊:8,676棟 非住家被害:3,690棟

4. 避難所の状況

【避難者数】

3月14日:37人

3月15日:35人(3名退所、1名入所)

3月16日:35人

【避難所運営】

避難所運営体制に変更なし。管理者も仕事等のため不在になる時間が増えているが、不在の間は外部支援者で代行している。3月中を持って千葉県職員の派遣が終了することとなった。運営管理者間で自活運営に向けた役割分担の再構築を検討していく方針が共有されている。

【避難所の生活状況】

二次避難先から戻ってくる避難者がいる一方で、いつまでもここに居るわけにはいけないので自宅に戻ろうと思うと話される避難者がいる。今後、避難者の出入りが増える見込みであり、適宜レイアウト等変更が必要となる可能性がある。また、18日に小中学校の終業式があり、春休みに入る。子どもたちが日中も避難所にいることとなるため、遊びや学習の場が確保できるように配慮が必要である。

食事については、外部支援者による昼食の提供が18日で終了予定である。19日以降は平日のみ学校給食が避難者にも提供されることとなった。休日・祝日は提供されないため、レトルト食品等に対応する予定となっており、食事の栄養バランスにも注意が必要である。

日中は自宅の片付けや仕事などで、不在となる人が多いため、避難所内に人は少ない。また、週末も金沢や富山などへ出かけられる人が多く、人が少なくなる。

5. 仮設住宅の状況

一期工事で40戸、二期工事で36戸建設され、全個数は76戸が完成している。一期工事区画は珠

洲市内で最も早く、2月9日より入居開始されており入居開始から1ヶ月が経過している。二期工事区画は3月2日より入居開始されている。団地内には集会所も設置されている。

6. 支援活動の実際

【避難所支援】

避難者の中には長期避難となり、「常備薬が無くなったから薬が欲しい」との希望が聞かれた。胃薬や痛み止めなどの常備薬については一時的にお薬をお渡しするなど対応した。また、手荒れからひび割れをしている避難者も数名おり、手指の保湿について説明し、支援物資にあったハンドクリームをお渡しした。これらの買い物については、自身で買い物に出かけることが困難な避難者は現状いないことを避難所本部が確認している。

保健師チームによる健康相談は、相談者が少なく毎週水曜日の週1回となった。今後、2次避難から戻られる方もいるため、適宜避難者の状況に合わせて訪問頻度を調整させていただくことを保健師チームと確認した。

【仮設住宅支援】

仮設住宅入居者の状況把握のため、全戸訪問を開始した。抽選による入居となったため、新たなコミュニティの形成が必要である。しかしながら、外に出ている人は多くなく、どこに誰が住んでいるのかもわからない状況とのことであった。そのため、まずは住民同士の交流が必要であり、イベントの開催などを検討していきたい。仮設住宅には独居の方やペットのいる家庭もあり、世代も多様ではあるが高齢化の進む地域でもあるため、高齢者が多い。会うことのできた住民は従前の住まいが持ち家の一軒家であったため、住まい方を大きく変更する必要がある。電動車椅子やバギーを使用している人も複数名いるが、仮設住宅の玄関前にはそういったものを置くスペースがなく、工夫して生活されている。また、居住メンバー毎の部屋を確保することも難しく、就寝スペースとリビングダイニングスペースを共用としていた。

7. 支援活動を通しての所感と課題

【避難所支援】

小中学生の避難者は現在7名であるが、避難所内の大人たちが家族かどうかに関わらず、子どもたちの面倒を見ている様子が度々見受けられ、地域ぐるみで子どもたちが育てられていると思われた。実際、避難所内に置かれている支援物資のお菓子を食べて、定時の食事が食べられていないことに気づき、子どもたちの食生活を改善するために避難所内の支援物資の整理にも非常に協力的であった。これから小中学校が春休みに入るため、子どもたちが避難所内で過ごす時間が増える。また、2次避難から戻って来られる方もいるため、適宜環境調整を図っていきながら、子どもたちの学習・遊びのスペースを確保していく必要がある。また、大人も同時に休息が必要な時には休息が取れるような環境を整備していく必要がある。

【仮設住宅支援】

今回、担当となっている正院地区の仮設住宅は珠洲市内で一番初めに建設された建設型仮設住宅団地である。そのため、珠洲市内における新たなコミュニティ形成のモデルケースとなっていくこととなる。抽選で入居者が決められたため、誰がどこに住んでいるのか、正院地区といっても広いので知らない人もいるという。大きく形を変えた地域コミュニティを今後どのように作っていくのか、

居住されている住民の皆様と一緒に考えていく必要がある。

参考：現地の様子



運動スペースで遊ぶ子どもたち



珠洲の若者たちが作成した動画を鑑賞している様子



仮設住宅のマップ